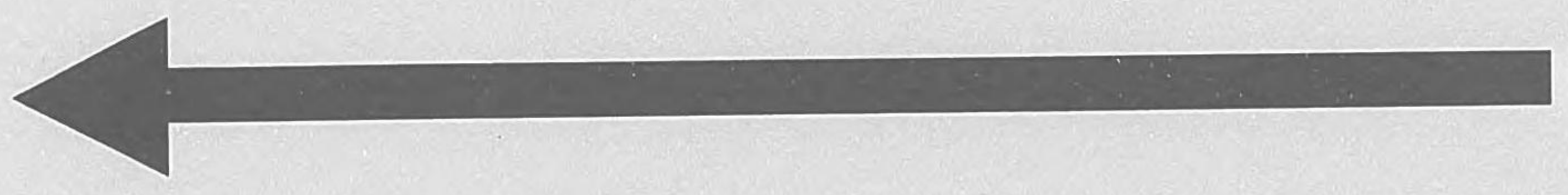


始



8
272

多山

泉

住

信州

信州

一巻







長野市中

長野縣廳の所在地にして古善

光寺村と稱せり現時戸數五千

人口三万市は殆んど善光寺あ

るが爲めに起つさいふも誣言

にあらざるなり





真裡市中

此の町は古くより
 産物多し其の味も
 人口三式市に比し
 此寺林を稱せり其
 具裡鎮の視察所也





善光寺大勸進

善光寺に賽せんとする
もの第一に眼に觸るゝ
本門外左側の寺務所な

リ



善光寺山門

二層樓門にして高六丈

六尺桁行十一間樓上に

文殊四天王を置く



善光寺本堂

抑も善光寺は定額山と號し天
智天皇御宇の草創にして當時
は天台宗なりしが後眞言宗に
改め寛永年間再び天台宗に歸
して東叡山に屬す本尊は圓淨
檀金の阿彌陀如來にして欽明
天皇御宇百濟より獻せしもの
寺域一万五千餘坪本堂の高十
丈百疊敷の外陣に禮拜する善
男善女四時絶えず



長野公園

善光寺境内七千三百餘

坪を割きて公園となす

梅柳桃李稍観るべし

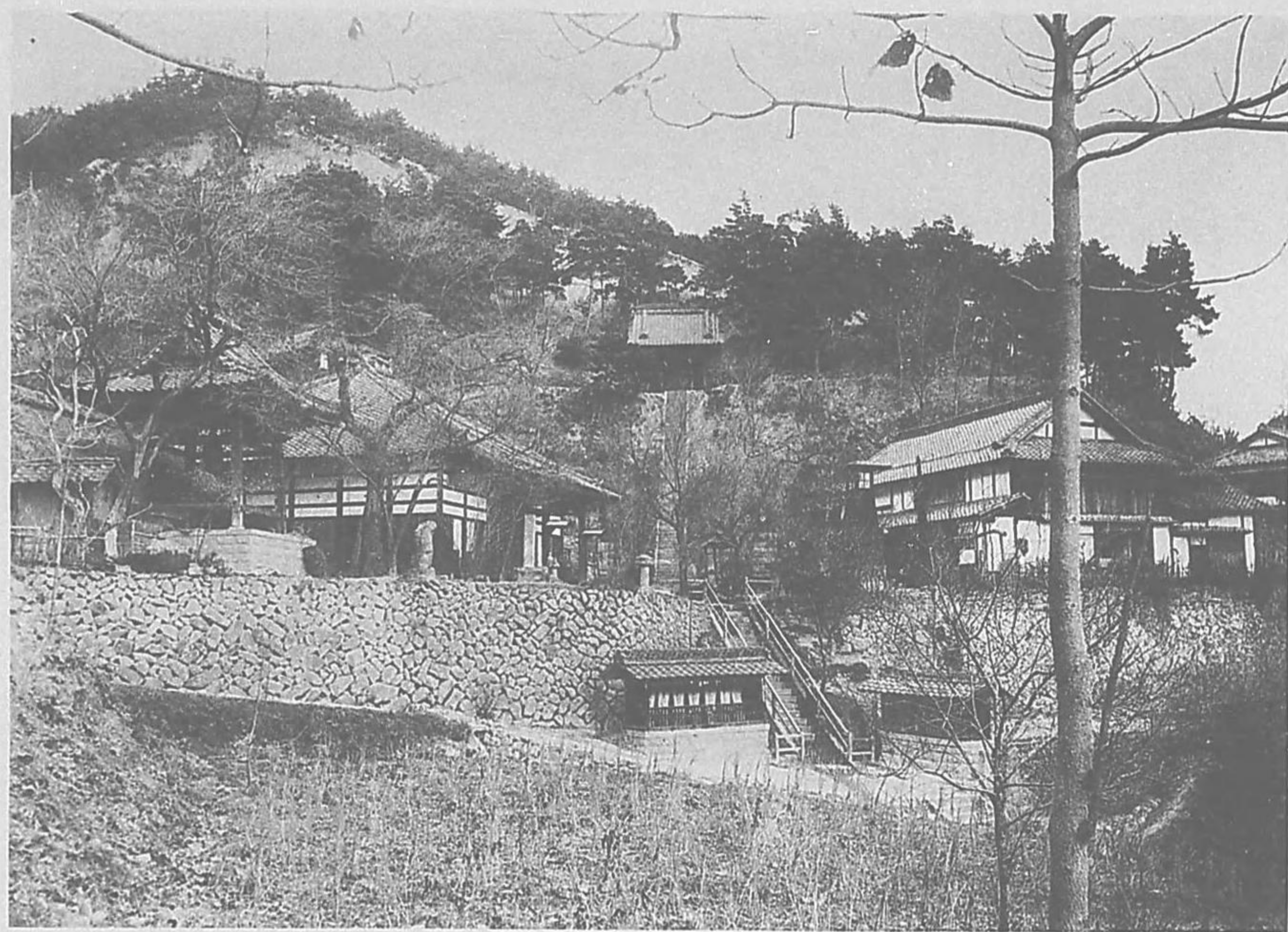




善光寺全景

長野町の北端大峯山上より下瞰し
たる眺望なり





荻萱堂

大峯山にある一堂なり傳へいふ

荻萱道心之を建

つと故に名あり

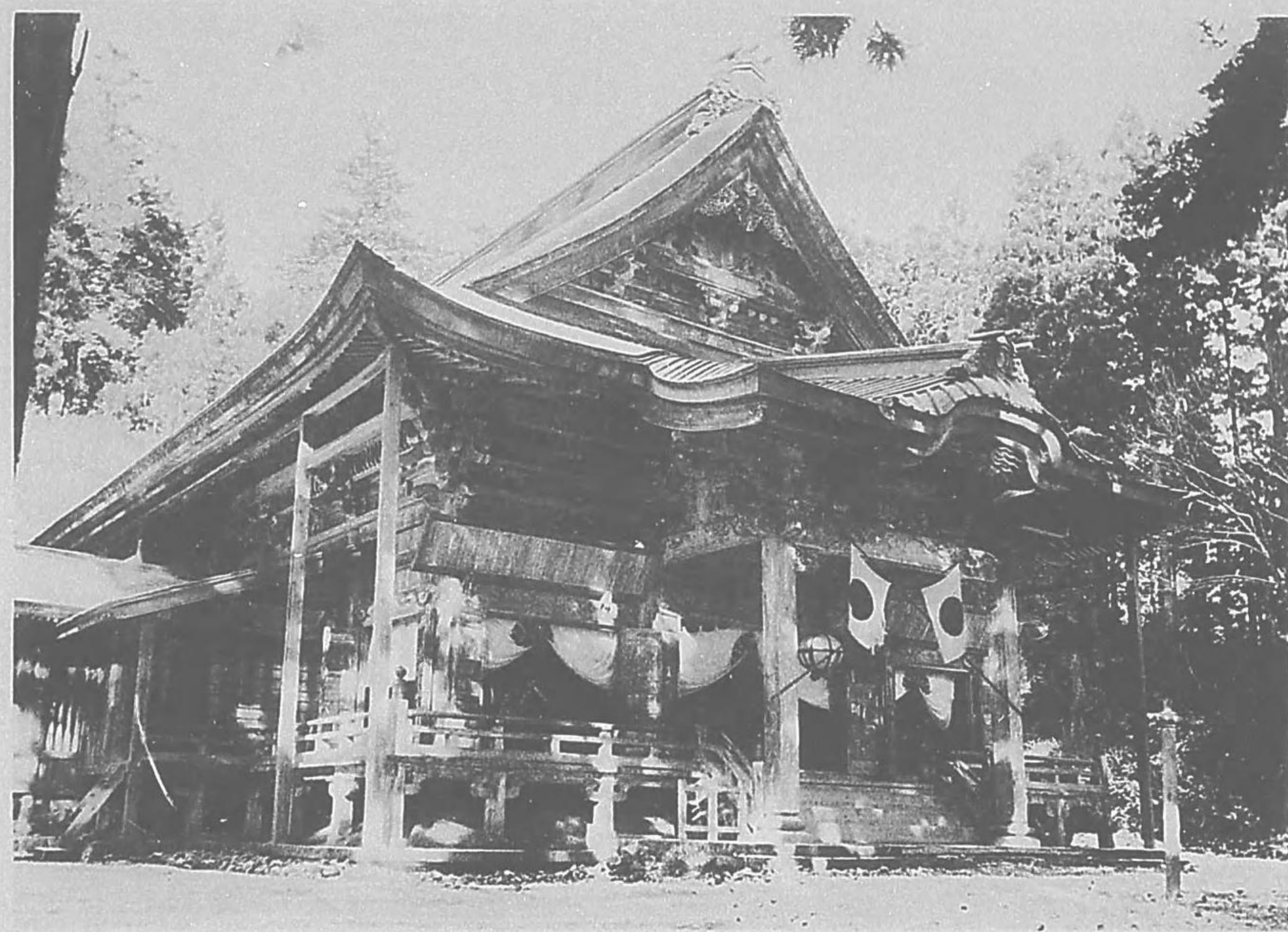




川中島

※

國滅びて山河あり城春にして草青
みたり川中島の古戰場は今に於て
何物をか存せる千曲川北に流れて
鏡の影を寄せ西條山翡翠の色を凝
して誰か爲に年々の春を粧ふにや
當年汗馬の跡蓬絶え草枯れて唯鳥
雀の喚ぐを見るのみこゝを鳥と呼
べるは千曲川と厚川との間にある
なもてなり申略尚ほ行きて八幡原
に至り牧童に古戰場は此處か之間
へば犢牛に跨りながらその社にあ
る處は武田方の本陣の跡なり今も
弓矢八幡の祠を建て、昔の威風を
仰ぐさいふ堂小かに槐老ひたり柳
の森をなせる下に石碑ありて十六
夜もまた更級の郡かなてふ芭蕉翁
が句を彫りぬ(乙羽子千山萬水)



戸隠中社

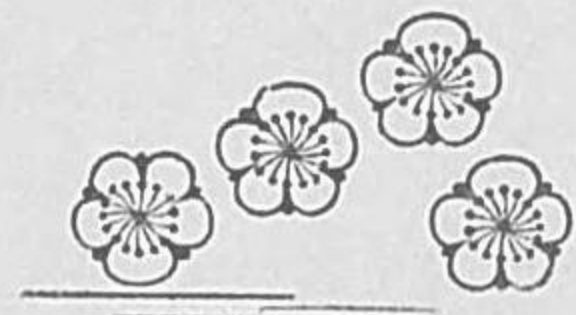
長野町を距る西北五里十町善光寺
の傍より直ちに阪路に就く已に山
中に入れば奇岩重疊老樹鬱蒼茲に
攝社二あり一を中社といひ一を寶
光社といふ中社は八意思兼命を祀





戸隠本社

中社より猶峻阪を登ると三十町にして本社に到る縣社にして手力雄命を祀る本社は岩窟に造り掛け左右に神輿庫權現社等あり





戸隠山全景

中社より約十五町を

登りて火定所より望

見せる全景なり





五十間長屋

本社の側にある岩窟にし
て右方を百間長屋左方を
五十間長屋といふ



蟻の戸渡

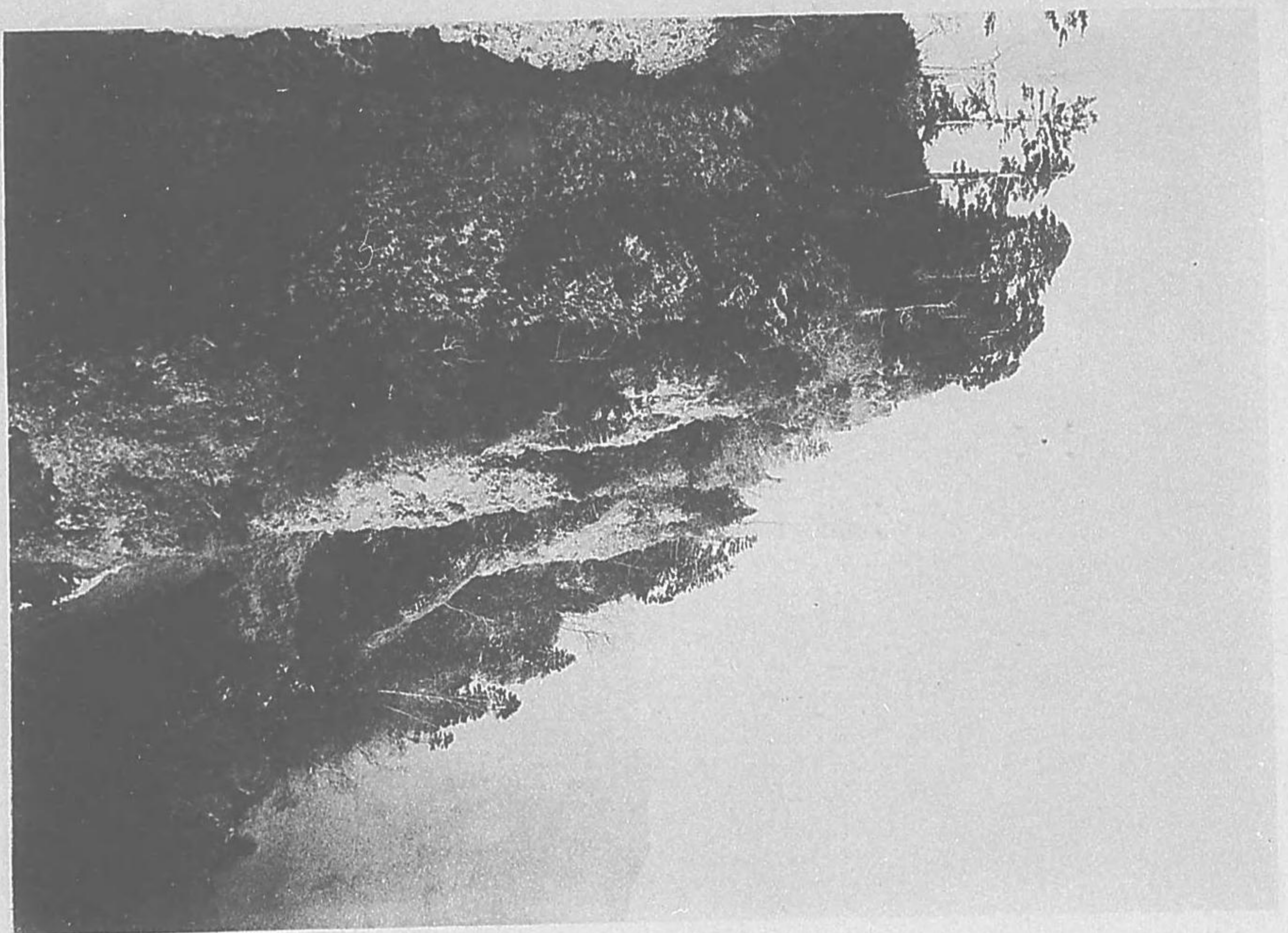
戸隠山の絶嶺にして
左右はこれ千尋の深
谷渡るに道なき所行
旅の人皆茲に到りて
逡巡顔色なし



山頂の奇巖

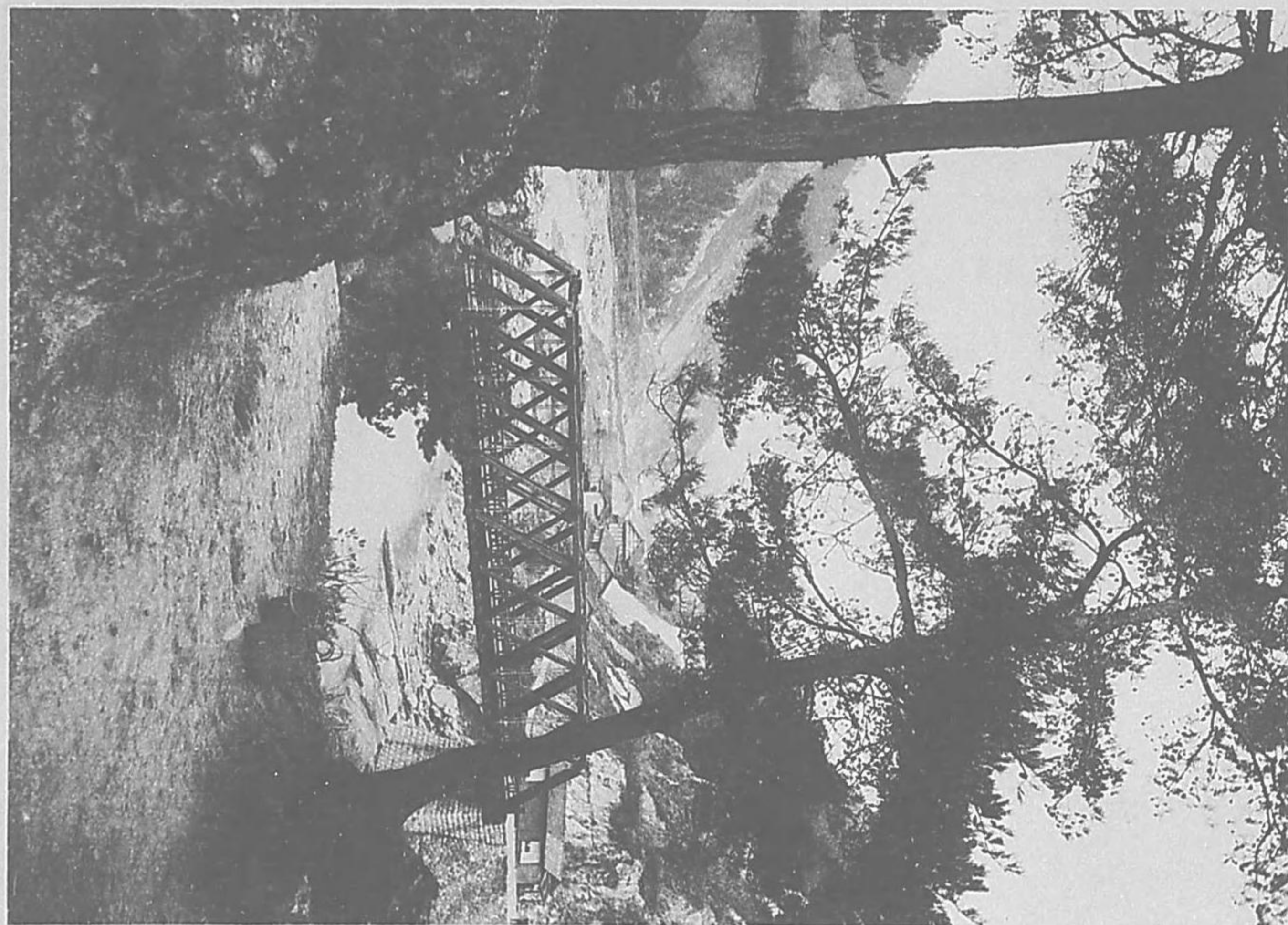


山中奇岩に富むこれ僅かに
其一部に過ぎず



兩郡橋

信濃より木曾路に通ずる所更
級郡と上伊那郡との界厚川の
上に架せるもの急湍奔流奇景
言はん方なし



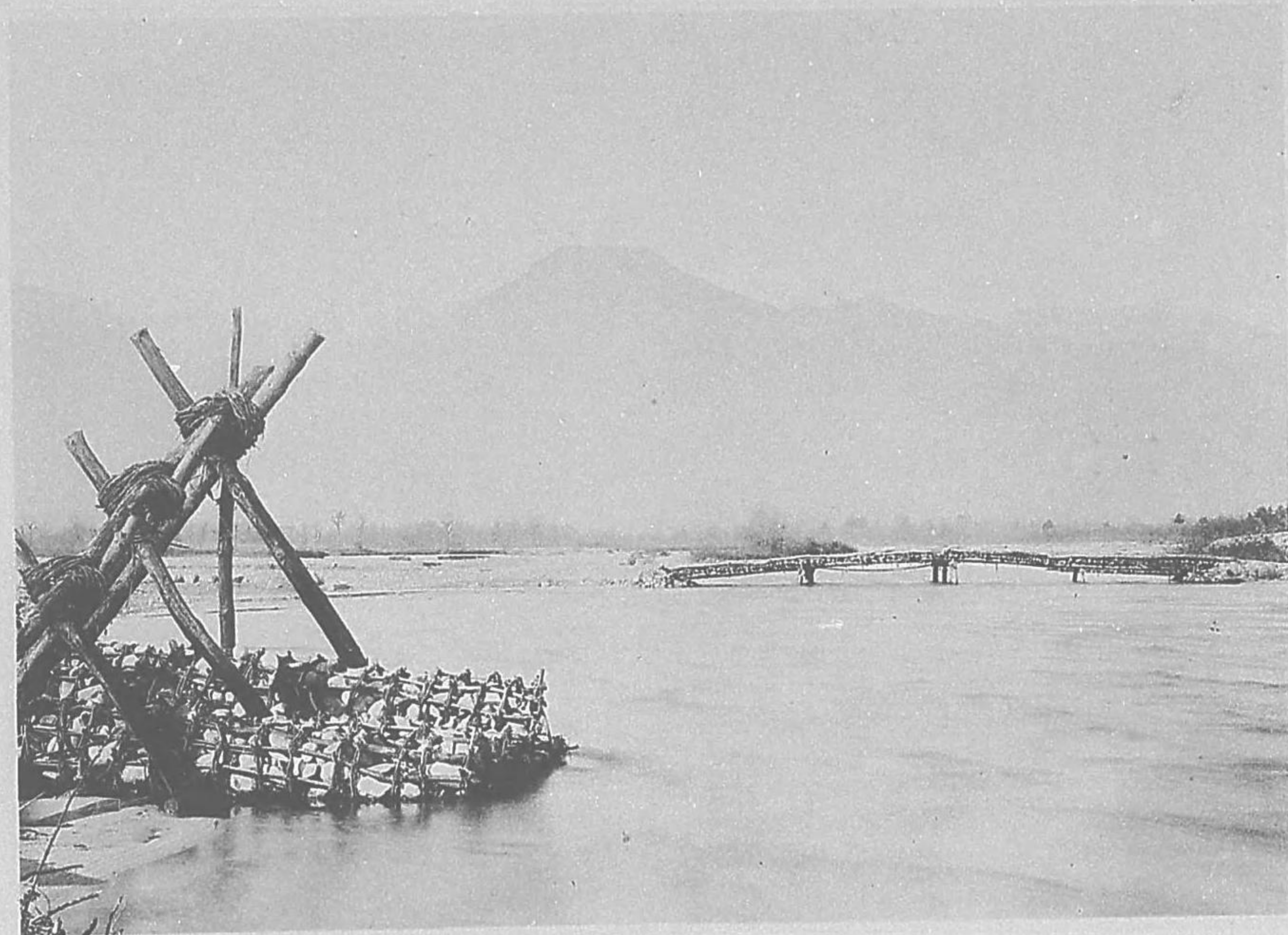
久米路橋



新町を出で、一里許久米路の橋と
いふ名高き名所あり厚川に臨みて
岩山峙ち松危氣に立てる中に年古りたる
社ありその山の腰を繞りて橋ある處に至
れば袂には櫻咲きて橋は蒼旻の虹かと疑
ふ行手に高き山ある麓には不動滝ありは
ら／＼松の木蔭には草の屋の檐に轟く水
車もかゝりて崖は千尺もありぬべぐ厚川
酒々として水は青く淵に渦巻くなご柔あ
り剛ある山水の配合景と景との取合せの
面白き多く得難き名勝なり

(乙羽子千山萬水)

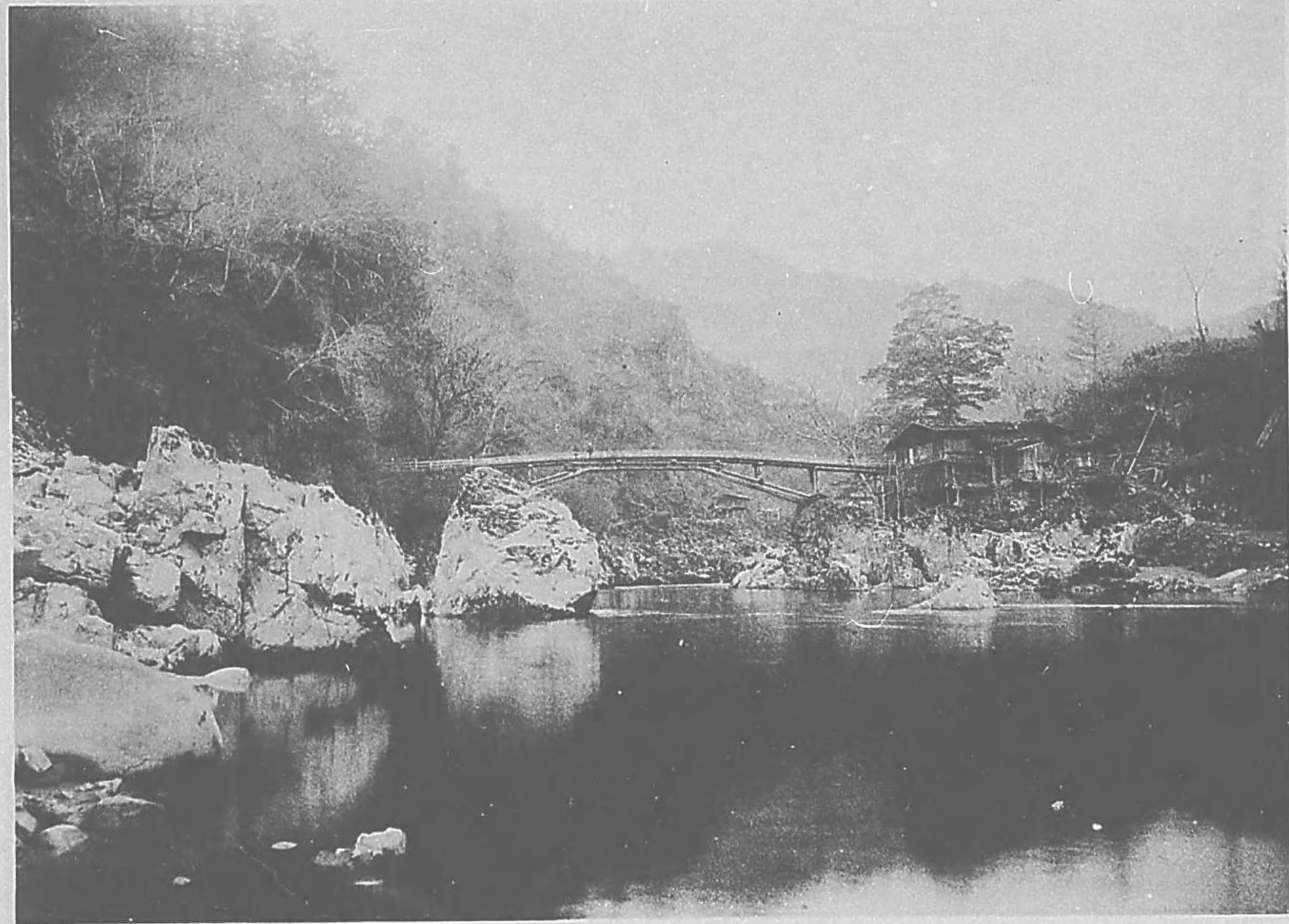




穂高川より信濃
富士を望む

厚川の支流に穂高川と
いふありこいより信濃
富士本名有明山北安曇
郡界にあるものを望見
せる所





橋戸全景

福島より一里半許王滝川
に沿ふて登る所一橋を架す橋
戸といふ此邊一帶山中の勝景
一步は一步より奇に遠く鷄犬
の聲を聞きて村間に一椀の湯
茶に湯を醫する所宛然是道中
師



明治三十二年八月三十日印刷

(旅の家土産第廿壹號)

明治三十二年九月十日發行

(非賣品)

發行兼印刷者

中尾新太郎

東京市赤坂區田町七丁目四番地
光村方寄留

發行所

光村寫真部

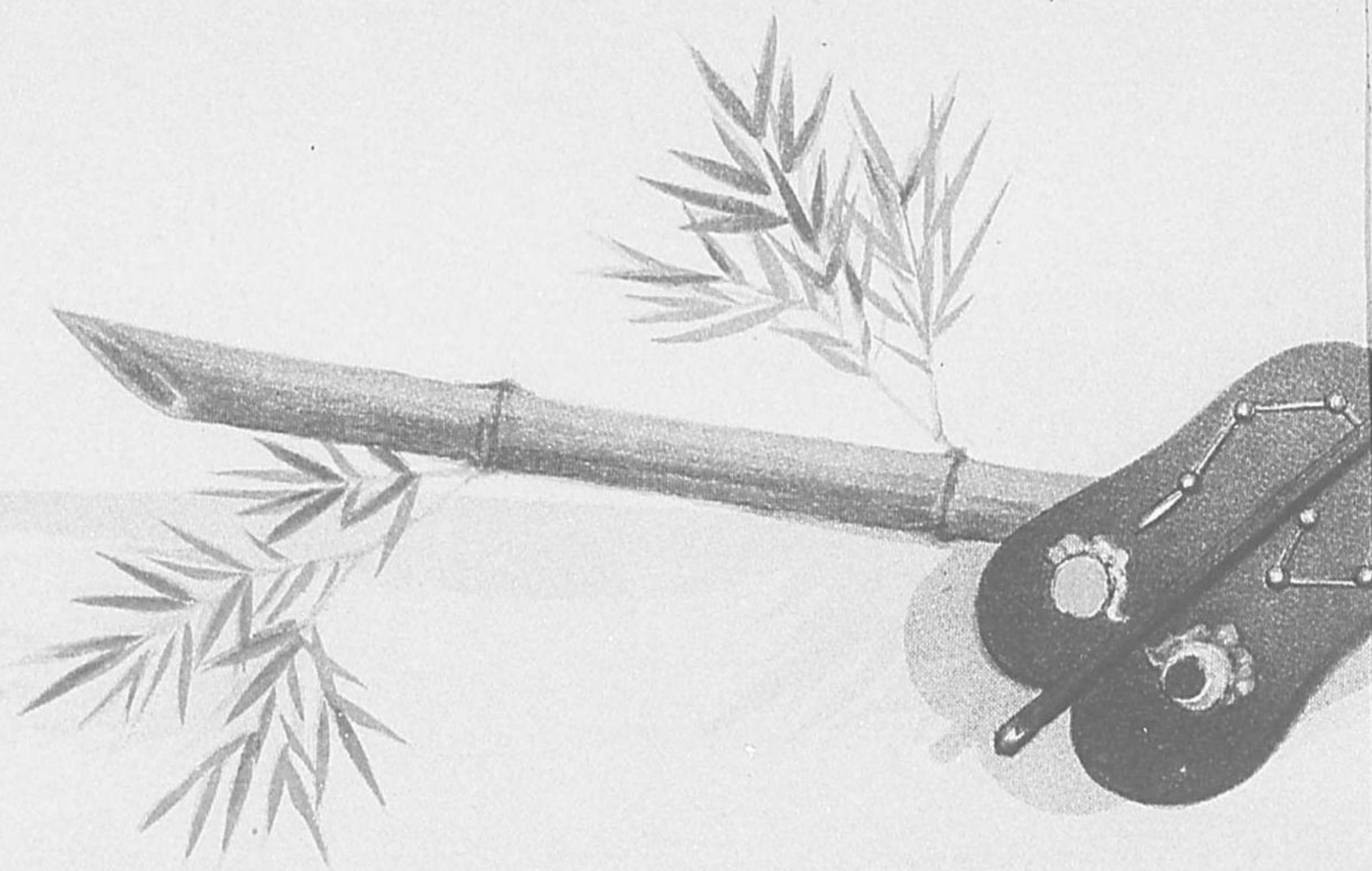
東京市赤坂區田町七丁目四番地

印刷所

光村寫真製版部

東京市赤坂區田町七丁目四番地

8
222

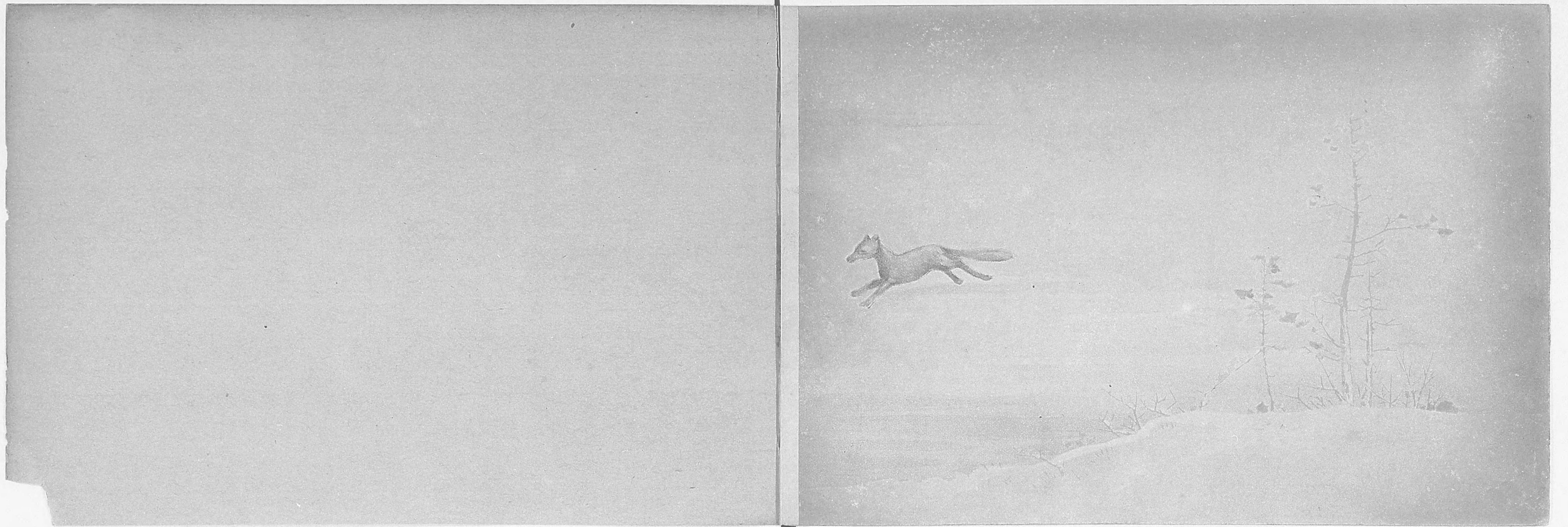


明 柳 池 光林寫真雙照滯
東京市赤坂區田町三丁目四番地

鏡 谷 池 光林寫真滯
東京市赤坂區田町三丁目四番地

養 計 兼 明 柳 池 中 吳 濂 太 浪
光林式發願
東京市赤坂區田町三丁目四番地

（非 賣 品）
即 部 三 十 二 年 武 日 十 五 日 發 行
（兼 〇 漆 土 垂 袋 廿 壹 張）
即 部 三 十 二 年 八 月 三 十 日 明 柳



8
222

終